

(別添4)

【中城村】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

児童生徒が情報を主体的に捉えながら、何が重要かを主体的に考え、他者と協働し、新たな価値を創造するために必要な情報活用能力を育成する。そのために1人1台端末をはじめとするICT環境を積極的に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させることで「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。

2. GIGA第1期の総括

令和2年度より、1人1台端末の整備及び校内ネットワーク環境の整備を行ったことで、児童生徒は各教室における端末の活用が実現している。

整備当初から継続してICT支援員を配置しており、児童生徒及び教職員のサポートに入る体制を構築しつつ、小学校から中学校にかけて、基本的操作や情報活用、プログラミング、情報モラル、端末持ち帰りについて、学年ごとにレベルを細分化し、段階的に引き上げていく目標を設定している。

また、クラウドツールを活用することで、児童生徒の資料作成や情報共有の仕組みも一定程度定着しており、学習環境は向上しているほか、教職員へ様々な活用事例や操作支援、研修会の開催等を行い、活用促進に努めている。

一方で、児童生徒の増加及び端末故障によって端末台数の不足が生じることが予測できるが、児童生徒数が予測以上に伸びたことによって、予備機対応でも追いつかない事態が生じており、児童生徒の推移予測について、学籍担当とも情報を共有し、台数管理の徹底や十分な予備機整備などを図る必要がある。

さらに、授業における端末利活用方法について、学年、学級において差が生じる恐れがあることから、引き続き研修会等を開催し、村立小中学校の利活用を統一的にできるよう、ICTを活用した教育環境の構築に努める。

3. 1人1台端末の利活用方策

端末利活用の前提として、端末の整備・更新により、児童生徒向けの1人1台端末の環境を引き続き維持する。

① 1人1台端末を積極的に活用するために

各学校において、継続して授業支援や各種研修等に取り組むことによって、活用を高めるとともに、利活用の共有化を図る。

② 個別最適・協働的な学びの充実について

グループ学習等を活用し、意見の集約や発表など、積極的に1人1台端末を活用することができるよう、各種教材やソフトの利用、情報共有を図ることにより、学びの充実化を図る。

③ 全ての児童生徒への学びの保障について

登校が困難な児童生徒等に対し、協働な学習機会が確保できるよう、端末を活用した支援に取り組むとともに、AIドリル等の教材を整備することによって、個別の教育活動の向上を図る。